

(資料 1)

## 平成 22 年度 事 業 報 告

(2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

## 1. 会 員 現 況

会員種別	平成 22 年度			参 考	
	2010. 4. 1 現在数 (A)	2011. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2010. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	18	19	1	18	1
終身会員	103	95	△8	96	△1
正 会 員	3,347	3,287	△60	3,316	△29
学生会員	763	843	80	785	58
賛助会員	196 社 (297 口)	197 社 (294 口)	1 社 (△3 口)	195 社 (296 口)	2 社 (△2 口)
特殊会員	102 社 (116 口)	95 社 (108 口)	△7 社 (△8 口)	101 社 (115 口)	△6 社 (△7 口)

## 2. 定款・規則等の制定・改正

- |                              |                |
|------------------------------|----------------|
| (1) 謝金等の支払いに関する内規の制定         | (2010. 4. 20)  |
| (2) 選奨規則の改正                  | (2010. 4. 20)  |
| (3) 栗屋 潔学術奨励賞受賞予定者選定手続の改正    | (2010. 5. 18)  |
| (4) 東北支部規則の改正                | (2010. 6. 21)  |
| (5) 選挙規則の改正                  | (2010. 7. 15)  |
| (6) 学生優秀発表賞規則の改正             | (2010. 7. 15)  |
| (7) 調査研究委員会等の経費及び経理に関する内規    | (2010. 7. 15)  |
| (8) 学生優秀発表賞受賞予定者選定規則の改正      | (2010. 12. 15) |
| (9) 若手研究者育成のための積立基金に関する規則の制定 | (2011. 2. 14)  |
| (10) 代議員選出規則の改正(附則の追加)       | (2011. 2. 14)  |

## 3. 機 関 誌 の 刊 行

- (1) 日本音響学会誌  
本期間は毎月 1 日 (1 号は 12 月 25 日) を発行日とし、次の 12 冊を刊行した。

66 巻 4 号～67 巻 3 号 (2010 年 4 月～2011 年 3 月)

巻 号	66 巻										67 巻			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
本文ページ	42	60	42	52	80	54	46	58	44	54	46	42	620	
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言									2			2	
	音叉	2			2			2					6	
	論文	9 (1)	16 (2)	8 (1)	17 (2)	20 (2)	18 (2)	19 (2)	21 (2)	9 (1)	12 (1)	20 (2)	12 (1)	181 (19)
	技術報告	6 (1)		5 (1)						5 (1)			16 (3)	

特別講演					4 (1)			6 (1)			6 (1)		16 (3)
解説 (小特集を含む)	19 (3)	38 (7)	18 (3)	27 (6)	18 (3)	30 (5)	21 (3)	24 (5)	19 (1)	36 (7)	12 (2)	26 (4)	288 (49)
会議報告 (シンポジウム報告)			6 (2)						1 (1)				7 (3)
連載企画	1 (1)		1 (1)		1 (1)		1 (1)		1 (1)		2 (1)		7 (6)
研究発表会報告					1						1		2
選奨記事・紹介記事					10								10
書評				1				1					2
研究会発表論文一覧					21								21
コーヒブレイク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
66巻総目次									4				4
学会記事等	2	3	1	2	2	3		2	2	1	2	1	21
投稿規定										17			17
編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
会告	9	27	29	16	15	63	23	25	21	13	67	13	321
広告	9	9	7	11	11	11	9	11	9	11	11	11	120
発行部数	5300	5050	5050	5000	5000	5000	5000	5000	5000	5000	5000	5000	
小特集タイトル		※1		※2		※3		※4		※5		※6	

注 1) 欄中の ( ) 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 機械の振動騒音解析の先進技術とその適用

2 環境問題と音響技術

3 誌上ビギナーズセミナー

4 交通騒音問題への取り組み

5 音声合成に関する研究の動向

6 動物実験から学ぶ聴覚システム

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2010年5月、7月、9月、11月、2011年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊を刊行した。

Vol. 31 No. 3~Vol. 32 No. 2 (2010年5月~2011年3月)

Vol.		Vol. 31				Vol. 32		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		46	58	70	53	52	38	317
主 な 論 文 ・ 記 事	Paper	43 (5)	37 (4)	38 (4)	24 (3)	15 (2)	15 (2)	172 (20)
	Technical Report		5 (1)	21 (2)	5 (1)	7 (1)		38 (5)
	Acoustical Letter		11 (3)	8 (2)	15 (5)	27 (8)	20 (6)	81 (24)
	ASJ shift to an on-line journal						1	1
	和文誌英文目次	2	2	2	2	1	1	10
	和文誌論文等内容梗概	1	2	1	2	2	1	9
	Vol. 31 総目次					5		5
発行部数		5000	4950	4950	4950	4950	4950	
小特集タイトル								

注) 欄中の ( ) 内数値は編数。

- (3) 科学技術振興機構が主催する電子ジャーナル共同利用センター（J-STAGE）のサイト(URL <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ast/-char/en>)で、引き続いて Acoustical Science and Technology 誌（AST 誌）を公開した。

#### 4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2010年3月8日、9日、10日の3日間、電気通信大学を会場として開催した。参加者実数は、1354名である。

なお、学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナー及び新人盛会を開催した。

スペシャルセッションは、5件、「音声対話研究の最前線」、「聴覚系における神経コーディング・デコーディングー脳活動と音処理の因果関係を探るー」、「次世代の吸音・遮音技術」、「都市環境における静穏性と安全性の両立」、「生物における音響情報処理ー基礎から応用までー」で実施した。

- (2) 秋季研究発表会は、2010年9月14日、15日、16日の3日間、関西大学千里山キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1083名である。

なお、学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。

スペシャルセッションは、7件、「臨場感の知覚と評価」、「音楽と楽器の相互作用ー歴史的視点と同時代的視点からー」、「やさしい解説ー学会誌記事からの講演ー」、「熱音響現象とは？ー音と熱の関りあいの物理ー」、「音声・オーディオ・マルチメディア信号処理・符号化技術の現状と今後の展開」、「環境音響計測の新展開」、「超音波利用の安全確立に向けて」で実施した。

- (3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音 声 A	105	69
	音 声 B	97	84
	聴覚/聴覚・音声	53	48
	電 気 音 響	117	109
	音 楽 音 響	33	31
	騒 音 ・ 振 動	37	38
	建 築 音 響	43	50
	超音波/水中音響	80	69
	アコースティック・イメージング	25	17
	音 響 教 育	4	8
	音支援（音バリアフリー）	4	3
	熱音響技術	11	8
	分野横断 SS[生物における音響情報処理ー基礎から応用までー]	6	
	分野横断 SS[都市環境における静穏性と安全性の両立]	8	
分野横断 SS[音声・オーディオ・マルチメディア信号処理・符号化技術の現状と今後の展開]		14	
分野横断 SS[環境音響計測の新展開]		12	
分野横断 SS[超音波利用の安全確立に向けて]		8	
計	623	568	

特別講演	演 題	コンピュータ・エンタテインメントへの応用ーリアルタイム・サウンドレンダリングー	古都に眠る千年の地下水脈
	講 師	サイバーアイ・エンタテインメント(株) 代表取締役 久夛良木 健 氏	関西大学学長 楠見 晴重 氏

## 5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超 音 波	蜂屋 弘之	11	125	アコースティックイメージング, 電気音響, 音響化学研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	加来 治郎	9	55	
電 気 音 響	三好 正人	8	125	音声, 音楽音響, 超音波, 聴覚研究会との合同開催の分を含む
音 声	有木 康雄	8	155	電気音響, 聴覚研究会, 音響教育調査研究委員会との合同開催の分を含む
聴 覚	赤木 正人	9	137	音声, 電気音響, 音楽音響研究会との合同開催の分を含む
建 築 音 響	阪上 公博	9	51	
音 楽 音 響	西口 磯春	7	96	聴覚, 電気音響研究会との合同開催の分を含む
音 響 化 学	酒井 啓司	1	13	音波の物性と化学討論会(超音波研究会と共催)
アコースティックイメージング	金井 浩	5	48	超音波研究会との合同開催の分を含む
合 計		67	805	

(2) 騒音・振動, 聴覚, 建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で実施した。

## 6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

ア. 2011年9月4日から7日までの間, 大阪国際会議場(大阪市)で共催する第40回国際騒音制御工学会議(INTER-NOISE 2011)の準備等に協力した。

イ. 2011年8月1日から4日の間, 早稲田大学国際会議場(東京都)において共催する第19回非線形音響国際シンポジウム(ISNA 19)の準備等に協力した。

ウ. 2010年9月30日から10月3日までの間, 箱根プリンスホテル(神奈川県)で開催したAVSP2010(The 9th International Conference on Auditory-Visual Speech Processing)に共催した。

エ. 2010年9月26日から30日までの間, 幕張メッセ(千葉県)で開催したINTERSPEECH2010に協力した。

(2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会(ICA), 国際騒音制御工学会(I-INCE)の総会等に出席し, その活動に協力した。また, 西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。

## 7. 音響規格の調査・作成

(1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格(JIS)に関して5年ごとの見直し作業を行った。

(2) 音響に関する国際規格(ISO/TC 43, 同/SC1, 同/SC2及びIEC/TC29関係)の審議を日本規

格協会から委託され、それぞれの専門委員会（橘 秀樹委員長[ISO], 佐藤宗純委員長[IEC])において審議し、結果をとりまとめて報告した。

## 8. 調査研究委員会の活動

### (1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

(株)高速道路総合技術研究所との共同研究により、「道路交通騒音の予測手法及び対策手法の研究」を実施、また、パシフィックコンサルタンツ(株)から道路交通騒音調査研究委員会での審議を受託。道路交通騒音調査研究委員会（山本貢平委員長）が作業を実施し、その成果を報告した。

### (2) 音響教育に関する調査研究

音響教育調査研究委員会（荒井隆行委員長）において、音響教育に関する現状の調査研究及び将来の音響教育のあり方等について審議を行った。また、2010年秋季研究発表会において、「やさしい解説 ー学会誌記事からの講演ー」をテーマとするスペシャルセッションを実施した。

### (3) 音バリアフリーに関する調査研究

音バリアフリー調査研究委員会（上羽貞行委員長）において、聴覚障害者のための会話システムの研究、デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。また、2010年春季研究発表会において、「都市環境における静穏性と安全性の両立」をテーマとするスペシャルセッションを実施した。

### (4) 超音波暴露に関する調査研究

超音波暴露調査研究委員会（蘆原 郁委員長）において、強力超音波、骨導超音波、楽音に含まれる超高周波音など、超音波が人体に及ぼす影響・評価について、定量的な指針確立に向けての情報交換の場を提供し、提言を行う活動を実施した。なお、2010年秋季研究発表会において、「超音波利用の安全確立に向けて」をテーマとするスペシャルセッションを実施した。また、当研究委員会は、今年度で活動を終了し委員会を解散した。

### (5) 音と脳科学に関する調査研究

音と脳科学調査研究委員会（本田 学委員長）において、人と音と脳の関わりについての調査研究を実施した。

### (6) 熱音響技術に関する調査研究

熱音響技術調査研究委員会（渡辺好章委員長）において、既存のエネルギー変換システムが抱える廃熱の利用を目的とする調査研究を実施した。また、2010年秋季研究発表会において、「熱音響現象とは？ ー音と熱の関りあいの物理ー」をテーマとするスペシャルセッションを実施した。

### (7) 音のデザインに関する調査研究

従来個別に研究されていた製品音、サイン音、サウンドスケープ、音環境等の音のデザインについて、包括的に調査研究を行い、音のデザインの必要性、可能性、将来性を発信することを目的とする音のデザイン調査研究委員会（岩宮眞一郎委員長）を新たに設置した。

## 9. 選 奨

### (1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第34回功績賞受賞者は、白井克彦、中村僖良、中山一郎の3氏に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

### (2) 佐藤論文賞

音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌65巻1号～12号、66巻1号～12号並びにAST誌Vol.30 No.1～No.6, Vol.31 No.1～No.6に掲載された論文の中から優秀な論文を選び、2011年春季研究発表会選奨会場(2011年3月10日)で本賞を贈呈した。

第51回佐藤論文賞受賞論文（敬称略）

- 牧 勝弘 (東京工業大学大学院/NTT コミュニケーション科学基礎研究所)・赤木 正人 (北陸先端科学大学院大学)・廣田 薫 (東京工業大学大学院)  
「聴覚末梢系の機能モデルの提案 —聴神経の位相固定性及びスパイク生成機構のモデル化—」日本音響学会誌 65 巻 5 号
- 鈴木 敬・金田 豊 (東京電機大学大学院)  
「サブバンドピークホールド処理を用いた音源方向推定法」日本音響学会誌 65 巻 10 号

(3) 環境音響研究賞

環境音響学の発展に貢献した、主として建築音響分野又は騒音分野に関連する一連の研究を対象とするもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2011 年春季研究発表会選奨会場(2011 年 3 月 10 日)で本賞を贈呈した。

第 2 回環境音響研究賞受賞者(敬称略)

- 藤本 一壽 (九州大学大学院)  
「建物群による道路交通騒音減衰量の予測法に関する研究」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音声処理に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2011 年春季研究発表会選奨会場(2011 年 3 月 10 日)で本賞を贈呈した。

第 6 回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者 (敬称略)

- 高橋 祐 (ヤマハ㈱)  
「アレー信号処理と非線形雑音抑圧処理を組み合わせたブラインド音声抽出技術およびその品質定量化理論に関する研究」
- 吉岡 拓也 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)  
「音場逆フィルタと時変音源モデルの同時推定による残響環境でのマイクロホンアレイ処理」

(5) 栗屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2010 年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2010 年秋季研究発表会選奨会場(2010 年 9 月 15 日)及び 2011 年春季研究発表会選奨会場(2011 年 3 月 10 日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第 28 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者 (敬称略/2010 年春季研究発表会)

- 高橋 祐 (ヤマハ㈱)  
「スペクトル減算とアレー信号処理の統合手法におけるミュージカルノイズ発生量の  
高次統計量に基づく数理解析の一般化」
- 丹羽 健太 (NTT サイバースペース研究所)  
「二次元格子状マイクロホンアレーを用いた反射音情報の推定」
- 福田 隆 (日本アイ・ビー・エム㈱)  
「頑健な音声認識のための線形-対数ハイブリッド領域における長時間動的特徴量」
- 柳谷 隆彦 (名古屋工業大学)  
「Brillouin 散乱法による圧電半導体の面内方向抵抗率評価」
- 吉岡 拓也 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)  
「スペクトル包絡の事前学習と調波構造モデルを併用した音声強調」

第 29 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者 (敬称略/2010 年秋季研究発表会)

- 小川 哲司 (早稲田大学)  
「情報論的な最適化に基づくマルチカーネル学習を用いた話者認識」
- 鎌本 優 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

「MPEG-4 ALS を用いたライブ演奏ロスレス音響伝送」

○ 翠 輝久 ((独)情報通信研究機構)

「意思決定支援を行う音声対話における強化学習を用いた対話戦略の最適化」

○ 森勢 将雅 (立命館大学)

「ピッチ同期分析と周波数平滑化に基づくスペクトル包絡推定法の誤差評価」

#### (6) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2010年 春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2010年秋季研究発表会選奨会場(2010年9月15日)及び2011年春季研究発表会選奨会場(2011年3月10日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

##### 第1回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2010年春季研究発表会)

石井 紀義(早稲田大学), 大西 豊(神戸大学), 落合 裕一(東京電機大学),  
鹿野 洋(東京大学), 小林 真也(中央大学), 七里 崇(龍谷大学),  
高木 信二(名古屋工業大学), 高橋 広樹(東北大学), 中西 宣人(東京大学),  
福島 遼介(東京工業大学), 藤岡 慧明(同志社大学), 増村 亮(東北大学),  
村尾 一真(東京大学), 森川 大輔(富山県立大学), 横溝 秀始(東京工業大学)

##### 第2回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2010年秋季研究発表会)

五十嵐 悠(東京工業大学), 石井 孝(千葉工業大学), 石井 要次(千葉工業大学),  
伊藤 裕(東京工業大学), 鎌土 記良(奈良先端科学技術大学院大学),  
木村 直人(奈良先端科学技術大学院大学), 桐山 直己(日本大学), 熊本 雅文(関西大学),  
齋藤 大輔(東京大学), 杉田 貴昭(静岡大学), 橘 秀幸(東京大学),  
名取 賢(山梨大学), 前田 祐貴(上智大学), 安 啓一(上智大学),  
安良岡 直希(京都大学)

#### (7) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者、賛助会員所属の個人、グループに贈られるもので、公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

##### 第19回技術開発賞受賞者 (敬称略)

○日東紡音響エンジニアリング(株)

「柱状拡散体 Acoustic Grove System」

静永 秀宏(日東紡音響エンジニアリング(株))

○日本放送協会放送技術研究所

「株式会社況音声合成装置の開発」

世木 寛之, 田高礼子, 清山信正, 大出訓史, 今井 篤, 都木 徹(日本放送協会放送技術研究所)

○(株)本田技術研究所四輪 R&D センター

「タイヤ空洞共鳴ノイズ消音用レゾネーターを内蔵した乗用車用消音ロードホイールの実用化」

神山 洋一, 石井克史, 高木久光, 柏井幹雄(本田技術研究所)

### 10. 講習会, 講演会及びセミナーの開催

#### (1) 講習会 (敬称略)

事業委員会(坂本慎一委員長)が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。

##### ア. 「音源定位と音源分離の基礎」(第109回技術講習会)

期 日; 2010年6月17日~18日 会場; 全国家電会館

講 師; 浅野 太(産業技術総合研究所)

受講者数; 25名

- イ.「強力超音波の基礎と応用」(第110回技術講習会)  
 期 日 ; 2010年7月8日 会場 ; 全国家電会館  
 講 師 ; 中村健太郎(東京工業大学), 渡辺裕二(拓殖大学)  
 受講者数 ; 55名
- ウ.「道路交通騒音の予測モデル“ASJ RTN-Model 2008”と建設工事騒音の予測モデル“ASJ CN-Model 2007”」  
 (第18回音響技術セミナー)  
 期 日 ; 2010年7月26日~28日 会場 ; 東大生研  
 受講者数 ; 65名  
 講 師 ; 橘 秀樹(千葉工業大学), 坂本慎一(東京大学), 山本貢平(小林理学研究所),  
 押野康男(自動車研究所), 福島昭則(ニューズ環境設計),  
 田近輝俊(環境技術研究所), 藤本一壽(九州大学),  
 松本敏雄(小林理学研究所), 西ヶ谷忠明(日本建設機械化協会),  
 縄岡好人(大林組), 横田考俊(小林理学研究所)
- エ.「音響・振動におけるFDTD法の基礎と応用」(第111回技術講習会)  
 期 日 ; 2010年10月28日~29日 会場 ; 東京大学生産技術研究所  
 講 師 ; 坂本慎一(東京大学), 佐藤雅弘(富山大学), 土屋健伸(神奈川大学)  
 受講者数 ; 56名
- オ.「デジタル信号処理の基礎」(第112回技術講習会)  
 期 日 ; 2010年11月11日~12日 会場 ; 東京電機大学神田キャンパス  
 講 師 ; 金田 豊(東京電機大学)  
 受講者数 ; 43名
- カ.「音の心理学的測定法講座」(第113回技術講習会)  
 期 日 ; 2010年11月24日~25日 会場 ; 東京大学生産技術研究所  
 講 師 ; 難波精一郎(大阪大学名誉教授), 桑野園子(大阪大学名誉教授),  
 宮岡 徹(静岡理工科大学), 籠宮隆之(産業技術総合研究所)  
 受講者数 ; 64名

(2) サマーセミナー(敬称略)

- ア.「音響学の基礎と最近のトピックス」(第13回サマーセミナー)  
 期 日 ; 2010年8月1日~3日 会場 ; 長野県白馬・シェラリゾート  
 講 師 ; 及川靖広(早稲田大学), 大内康裕(早稲田大学), 大川茂樹(千葉工業大学),  
 太田達也(千葉工業大学), 尾本 章(九州大学), 坂本慎一(東京大学),  
 中村健太郎(東京工業大学), 三浦雅展(立命館大学),  
 山崎芳男(早稲田大学), 山田真司(金沢工業大学)  
 受講者数 ; 57名

(3) ビギナーズセミナー(敬称略)

ビギナーズセミナー実行委員会(大川茂樹委員長)で初学者を対象にビギナーズセミナーを開催した。2010年春季研究発表会では,“音を測ろう,音で測ろう”をテーマとして,新人盛会と併催した。2010年秋季研究発表会では,音響教育分野のスペシャルセッション“やさしい解説ー学会誌記事からの講演ー”に共催した。

1.1. 特別企画の開催

2010年9月13日,関西大学千里山キャンパスにおいて関西支部との共催で,“スペシャルトークイベント:シニア研究者に聞く,音声研究の過去・未来”と題する特別企画を開催した。会場参加者数は,65名(うち,日本音響学会員:53名,IEEE会員:15名),インターネット経由での視聴数は208名であった。

1.2. 出版事業

出版委員会(鈴木陽一委員長)に属する3つの編集委員会,音響テクノロジーシリーズ編集委員会(正木信夫委員長),音響入門シリーズ編集委員会(鈴木陽一委員長),音響サイエンスシリーズ編集委員会(岩宮眞一郎委員長)において,それぞれ企画内容について審議し,出版した。なお,平成22年度の発行状況は以下の通りである。

ア. 音響テクノロジーシリーズ

- ・ アコースティックイメージング(2010/09/17発行)
- ・ 音のアレイ信号処理ー音源の定位・追跡と分離ー(2011/02/25発行)

イ. 音響入門シリーズ

- ・ 音響学入門(2011/03/23 発行)
- ウ. 音響サイエンスシリーズ
  - ・ 音色の感性学 ―音色・音質の評価と創造―(2010/08/27 発行)
  - ・ 空間音響学(2010/08/27 発行)

### 1 3. 学会電子化推進に関する活動

電子化推進委員会(伊藤彰則委員長)において、Web を利用した各種会員サービスについて検討した。今年度は、会員の入会を Web 経由で手続きできるようにした。

### 1 4. 会勢拡大及び広報に関連する活動

- (1) 会勢拡大委員会(赤木正人委員長)において、会勢の拡大につながる諸策を検討した。
- (2) 長期間会員として在籍された正会員及び博士前期課程までの学生会員を対象に会費の特例制度を設けた。
- (3) 広報委員会(宇佐川毅委員長)において、メーリングリストを利用した会員へのメールニュースを送付し、会員への迅速な情報伝達を図った。
- (4) 活性化委員会(尾本章委員長)において、学生フォーラムの活動について検討した。

### 1 5. 学会創立 75 周年記念事業

- (1) 会員に若手研究者育成のための寄付を依頼し、236 名の会員から 782 口の申し出があった。寄付金は、若手研究者育成事業のため積み立てた。
- (2) 学術委員会で創立 75 周年企画のスペシャルセッションとして、「原点回帰へ」をテーマにスペシャルセッションを企画した。同スペシャルセッションは、2011 年春季及び秋季研究発表会で実施する。

### 1 6. 通常総会の開催

- (1) 第 44 回通常総会  
2010 年 5 月 18 日、東京工業大学において開催した。なお、出席者は、120 名(うち委任状による出席 82 名)であった。

### 1 7. 理事会、役員会並びに委員会活動

- (1) 理事会  
平成 22 年度理事会は、2010 年 4 月、2011 年 2 月、3 月の 3 回開催した。
- (2) 役員会  
平成 22 年度役員会は、2010 年 8 月を除く毎月、計 11 回開催した。
- (3) 企画委員会  
平成 22 年度企画委員会(中村健太郎委員長)は、毎月、計 12 回開催した。なお、企画委員会の中に財政状況の改善を検討する財政改善委員会を設置して、審議を行った。
- (4) 編集委員会  
平成 22 年度編集委員会(正木信夫委員長)は、2010 年 5 月、7 月、9 月、11 月、2011 年 1 月及び 3 月の計 6 回開催した。
- (5) 学術委員会  
平成 22 年度学術委員会(渡辺好章委員長)は、2010 年 7 月、9 月、12 月、2011 年 3 月の 4 回開催した。
- (6) 研究発表会準備委員会  
平成 22 年度研究発表会準備委員会(小澤賢司委員長)は、2010 年 7 月、9 月、12 月、2011 年 3 月の 4 回開催した。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、7 月、12 月の 2 回開催した。

(7) 国際渉外委員会

平成 22 年度国際渉外委員会（山田一郎委員長）は、2011 年 3 月に開催した。

(8) 一般社団法人移行委員会（瀧浪弘章委員長）

一般社団法人の移行について、新たな定款の策定、移行手続等について確認、検討した。

1 8. 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	2 件	(社)日本機械学会ほか
協 賛	41 件	(社)計測自動制御学会ほか
後 援	2 件	(社)日本電子機械工業会ほか
計	45 件	

1 9. 支部所属会員

(1) 関西支部

会員種別	平成 22 年度			参 考	
	2010. 4. 1 現在数 (A)	2011. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2010. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	4	5	1	4	1
終身会員	9	8	△ 1	9	△1
正 会 員	548	538	△10	545	△7
学生会員	144	174	30	158	16

(2) 東北支部

会員種別	平成 22 年度			参 考	
	2010. 4. 1 現在数 (A)	2011. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2010. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	3	3	0	3	0
終身会員	3	5	2	3	2
正 会 員	160	155	△5	154	1
学生会員	34	53	19	41	12

(3) 東海支部

会員種別	平成 22 年度			参 考	
	2010. 4. 1 現在数 (A)	2011. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2010. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	1	1	0	1	0
終身会員	6	7	0	6	1
正 会 員	289	287	△2	286	1
学生会員	73	69	△4	75	△6

(4) 九州支部

会員種別	平成 22 年度			参 考	
	2010. 4. 1 現在数 (A)	2011. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2010. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	3	4	1	3	1
正 会 員	175	177	2	175	2
学生会員	59	69	10	63	6

(5) 北陸支部

会員種別	平成 22 年度			参 考	
	2010. 4. 1 現在数 (A)	2011. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2010. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	2	2	0	2	0
正 会 員	71	71	0	67	4
学生会員	38	43	5	41	2

## 20. 支部の事業

### (1) 関 西 支 部

#### ア. 支部役員会

支部役員会は、2010年4月、7月、12月、2011年1月、3月の5回開催。

#### イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	22. 4. 13	吹田市立文化会館メイシアター	2009年度事業報告・決算報告 2010年度事業計画・予算書 出席者 182名(うち委任状 159) / 定足数 117名
見学会	22. 4. 13	アサヒビール吹田工場	工場見学 参加者 20名
聴覚研究会	22. 5. 14 ～ 15	同志社大学京田辺キャンパス	発表件数 21件 参加者(のべ) 104名
音声研究会・電気音響研究会(共催)	22. 5. 26 ～ 27	甲南大学神戸・平生記念セミナーハウス	発表件数 21件 参加者(のべ) 69名
建築音響研究会	22. 8. 3	キャンパスポート大阪	発表件数 6件 参加者 24名
日本音響学会 2010 年秋季研究発表会直前特別企画「スペシャルトークイベント: シニア研究者に聞く, 音声研究の過去・未来」(主催, 日本音響学会本部と共催)	22. 9. 13	関西大学千里山キャンパス	招待研究者: 板倉文忠先生(名城大), 古井貞熙先生(東工大), 中川聖一先生(豊橋技科大) 司会: 戸田 智基氏(奈良先端大), 西村竜一(和歌山大) 出席: 65名, インターネット中継 視聴数: 208
音楽音響研究会	22. 9. 13	同志社大学今出川キャンパス	発表件数 5件 参加者 20名
動物音響談話会	22. 10. 2	同志社大学京田辺キャンパス	講演 3件 参加者 26名
平成 22 年電気関係学会関西連合大会	22. 11. 13 ～ 14	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	音響関係発表 23件 うち, 選奨 4件
第 13 回若手研究者交流研究発表会	22. 12. 5	同志社大学室町キャンパス寒梅館	発表件数 68件(学生 64, 一般 4) 参加者 135名(学生 90, 一般 45) うち最優秀奨励賞 1件, 奨励賞 12件, 関西支部長賞 1件
騒音・振動研究会	22. 12. 17	キャンパスプラザ京都	発表件数 6件 参加者 13名
超音波研究会・電気音響研究会(併催)	23. 1. 20 ～ 21	同志社大学京田辺キャンパス	発表件数 超音波 19件 / 電気音響 20件 参加者 超音波(のべ) 68名 / 電気音響(のべ) 63名
音声研究会	23. 1. 27 ～ 28	NICT(情報通信研究機構) けいはんな研究所	発表件数 12件 参加者(のべ) 86名

### (2) 東 北 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2011年2月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	22. 4. 21	東北大学工学部	
第 1063 回学術講演会	22. 4. 21	東北大学工学部	「音響における単位の話」 講師 佐藤宗純 氏 (秋田県立大 学教授) 来聴者 250 名
第 1068 回学術講演会	22. 7. 9	東北大学電気通信研究 所	「Sound Quality Assessment of Earphone - A Subjective Assessment Procedure and an Objective Prediction Model」 講師 Koeng-Mo Sung 氏 (Seoul National University 教授) 来聴者 20 名
音声研究会	22. 7. 22 ～ 24	秋保温泉緑水亭	
電気音響研究会・聴覚研 究会	22. 8. 9 ～ 10	東北大学電気通信研究 所	
専門講習会	221. 8. 19	山形大学工学部	テーマ「新しい音響出力装置とそ の応用」 来聴者 46 名 電子情報通信学会と共催
電気関係学会東北支部 連合大会	22. 8. 26 ～ 27	八戸工業大学工学部キ ャンパス	発表件数 330 件 参加者 572 名 (のべ) 特別講演「国宝「合掌土偶」と漆文 化について」 講師：栗村 知弘 氏 (八戸縄文保 存協会 会長) 来聴者 約 100 名
超音波研究会	22. 9. 29 ～ 30	東北大学工学部	
アコースティックイメ ージング研究会	22. 12. 10	東北大学工学部	
平成 23 年東北地区若手 研究者研究発表会 (共 催)	23. 3. 12	仙台高等専門学校広瀬 キャンパス	「音・光・電波・エネルギー・シ ステムとその応用」

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2010年3月、12月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	22. 3. 25	名城大学名古屋駅サテ ライト	参加者 18 名
支部講演会	22. 3. 25	名城大学名古屋駅サテ ライト	参加者 21 名
騒音・振動研究会	22. 5. 21	名城大学天白キャンパ ス	参加者 35 名 講演件数 6 件
東海地区音声関連研究 室修士論文中間発表会 (後援)	22. 8. 7	静岡大学浜松キャンパ ス	参加者 158 名 講演件数 52 件

電気関係学会東海支部 連合大会	22. 8. 30 ～ 31	中部大学春日井キャン パス	一般講演 614 件 (音響関係 13 件) シンポジウム 4 件 チュートリアル 3 件 参加者 1103 名
見学会	22. 10. 25	浜松市楽器博物館・ヤマ ハ掛川工場	参加者 23 名
音声研究会	22. 11. 18 ～ 19	愛知県立大学	参加者 91 名 (のべ) 講演件数 19 件
聴覚研究会	22. 11. 25 ～ 26	豊橋技術科学大学	参加者 52 名 (のべ) 講演軒数 11 件
支部技術講習会	22. 11. 22	名古屋駅前イノベーション ジョンハブ	講演 4 件 参加者 36 名
建築音響, 騒音・振動関 連若手研究発表会	22. 11. 30	名城大学名古屋駅サテ ライト	講演件数 8 件 参加者 26 名
2010 年度学生表彰式・祝 賀会	22. 12. 6	名古屋ガーデンパレス	出席者 21 名 (うち表彰学生 6 名)

#### (4) 九州支部

##### ア. 支部役員会

支部役員会は, 2011 年 3 月に開催。

##### イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
音声研究会	22. 6. 17 ～ 18	九州大学筑紫キャンパ ス	
第 63 回電気関係学会連 合大会	22. 9. 25 ～ 26	九州産業大学	講演申込 612 件 (うち音響・音声部門 26 件)
騒音・振動研究会	22. 11. 12	熊本大学	
電気音響研究会	22. 11. 18 ～ 19	九州大学大橋キャンパ ス	
聴覚研究会	22. 12. 10 ～ 11	かんぼの宿柳川	
九州嶺南音響学会議 2011 (KYJCA2011)	23. 1. 22	熊本大学	発表件数 50 件
見学会	23. 1. 22	新博多駅	参加者 33 名
騒音・振動研究会	23. 2. 10	沖縄男女共同参画セン ター	
音楽音響研究会	23. 2. 11 ～ 12	九州大学大橋キャンパ ス	
支部総会	23. 3. 26	Iichiko 総合文化セン ター	出席者 80 名 (うち委任状提出者 64 名)

##### ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会, 研究会における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は 5 名であった。

#### (5) 北陸支部

##### ア. 支部役員会

支部役員会は, 2010 年 4 月, 7 月, 9 月, 2011 年 1 月, 3 月に開催。

##### イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	22. 4. 17	金沢市近江町交流プラ ザ	出席者 37 名 (うち委任状提出者 20 名)
騒音・振動研究会	22. 8. 20	金沢工業大学	講演 5 件, 参加者 16 名
電気関係学会北陸支部 連合大会	22. 9. 11 ～ 12	福井工業高等専門学校	音波・音響関係部門 招待講演 1 件

			一般講演 19 件 優秀論文発表賞 3 名
聴覚研究会	22. 10. 16 ～ 17	加賀白山荘	講演 14 件, 参加者 43 名 招待講演 2 件 ビギナーズセミナー合宿
電気音響研究会	22. 10. 21 ～ 22	金沢市近江町交流プラ ザ	講演 26 件, 参加者 55 名
見学会・講演会	22. 11. 6	太鼓の里資料館 (白山 市)	基調講演 1 件 参加者 11 名
講演会	23. 1. 14	石川県立美術館	講師 古井貞熙 氏 (東工大教授) 聴講者 33 名
北陸地区学生による研 究発表会	23. 3. 6	富山工業高等専門学校	音波・音響関係 講演 3 件
第 3 回音響・超音波ジョ イント研究会	23. 3. 14	金沢市近江町交流プラ ザ	発表 6 件 参加者 20 名

ウ. 表彰

- ・電気関係学会北陸支部連合大会における発表者のうち, 3 名に優秀論文発表賞を贈呈した。